

# 2020年3月期 決算説明会資料

～中期経営計画 NC2020 3年目の進捗について～

稲畑産業株式会社

代表取締役社長 稲畑 勝太郎

2020年6月4日

1. 会社概要	… P 3
2. 事業環境	… P 5
3. 中期経営計画 <i>NC2020</i> について	… P 10
4. <i>NC2020</i> 3年目の進捗について	… P 13
5. 株主への利益還元	… P 22
6. 参考資料	… P 28

## 稲畑産業とは、



稲畑染料店（京都・西陣）

### 1. 創業1890年

1890年 京都において、稲畑染料店として発足  
その後、ケミカル分野を中心に事業を拡大

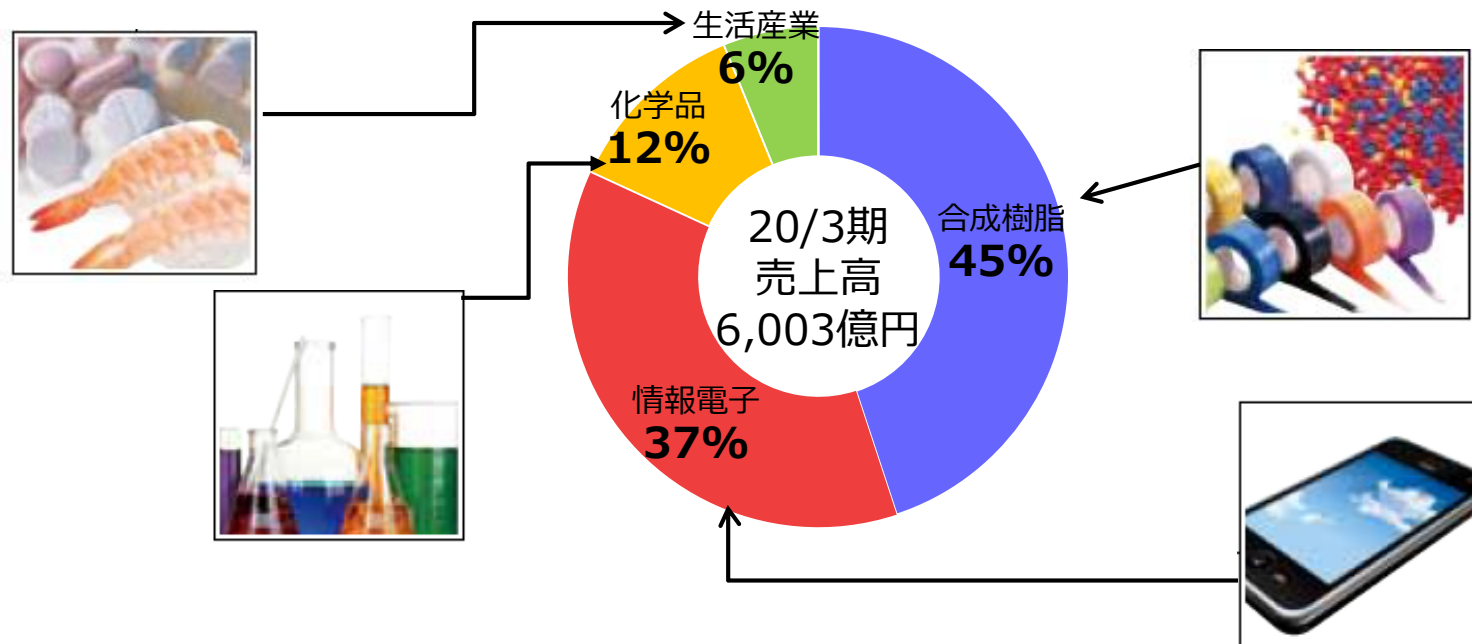
### 2. グローバルに複合展開する商社

世界17カ国に約60拠点を展開  
市場開発、製造加工、物流、ファイナンス等の機能  
商品やマーケットの専門知識・ノウハウに基づく企画・提案



## 3. 4つの事業分野

情報電子、化学品、生活産業、合成樹脂の  
4つの分野で事業を展開



(※) 20/3期より、住環境事業は化学品事業に統合しました。

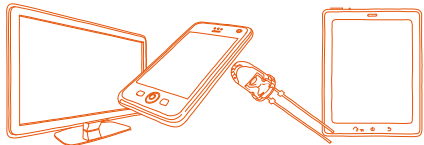
## ■ 事業環境

- BCPの観点から、最大限感染拡大の防止に努めて事業を継続
- 2020年2月13日に全社対策本部を設置
- テレワーク比率（国内本社）は、概ね80%を達成
- 感染者は、現時点でいない

## ■ 情報電子事業・化学品事業は、ほぼ影響なし、生活産業事業・合成樹脂事業は需要減などによりマイナスの影響

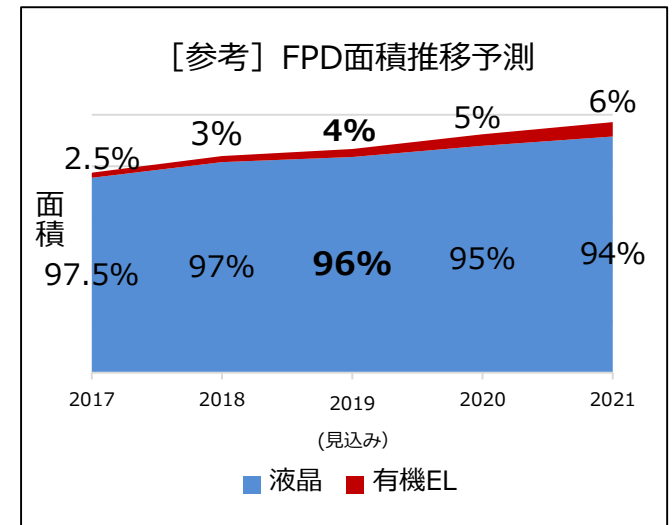
セグメント	分野	20/3期の主な影響
情報電子	①液晶関連	①（影響なし）各パネルメーカーとも、前工程の稼働は新型コロナウイルスの影響を受ける事なく高稼働で推移
	②OA関連	②（影響なし）
化学品	全般	（-）全体として、大きく影響はなかったが、中国を中心に2月、3月の落ち込みの影響で通期としては販売が微減
生活産業	①ライフサイエンス関連	①（-）仕入先である中国企業の工場稼働停止の影響あり
	②食品関連	②（-）国内：回転すし向け活魚スライス品、施設・給食向け切り身魚、 外食向けエビ商品など水産品の販売が減少 （-）海外：水産物（ソフトシェルクラブ）など、外食向け水産品の販売が減少
合成樹脂	①汎用樹脂	①（+）食品容器・消毒液容器分野の販売は好調 （-）自動車向け合成ゴムの販売は減少 （-）建材・土木・電線関連でも工事遅れから減少
	②機能樹脂 （OA関連）	②（-）アジアの日系顧客向け外装材の販売が減少
	③高機能樹脂 （自動車関連）	③（-）中国：日系・非日系向け共に販売が減少。 全体では、Tier1,2向けの販売は3月末まで大きなストップなし

- 液晶パネル市場は、TVの大型化を背景に面積ベースで緩やかに成長
- 年度終盤の新型コロナウイルス感染拡大下においても中国のパネルメーカーの高稼働が続く
- 有機ELパネルはスマートフォン向けに成長続くが面積ベースでは限定的



[参考] 大型液晶パネル 面積ベース推移予測

	2017年	2018年	2019年 (見込み)
対前年比 (%)	105%	108%	103%



※2020～2021年予測にコロナ禍の影響は加味していません。

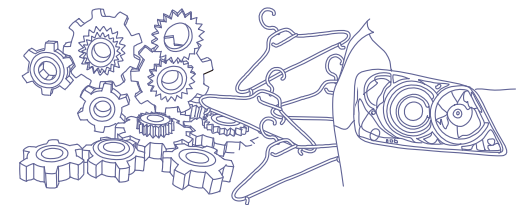
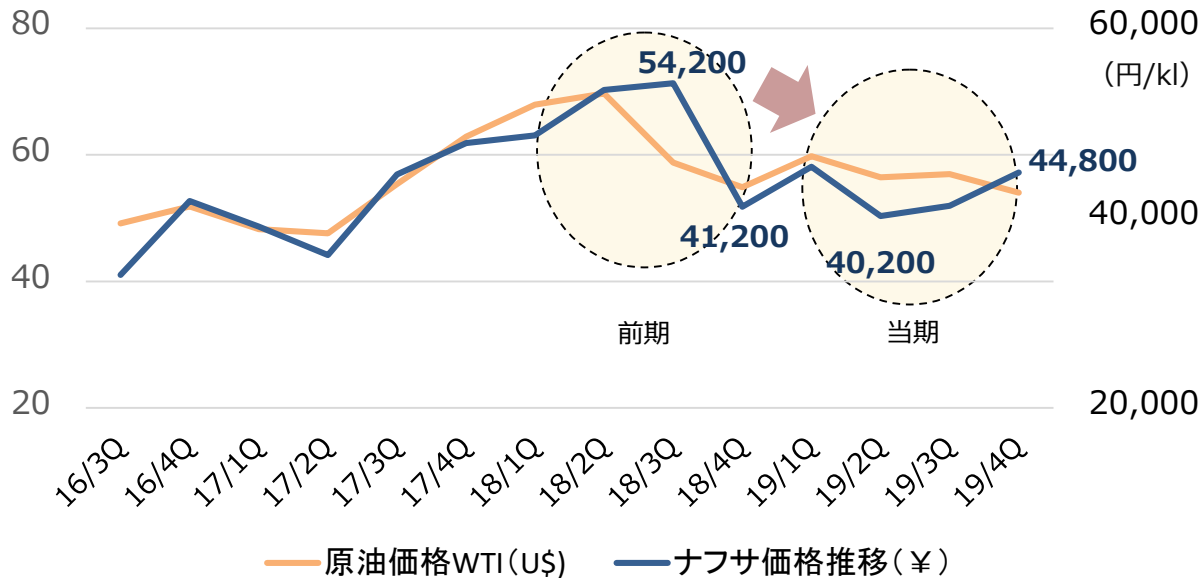
(※) 参考の推移予測は、各種資料より当社推計



- ナフサ価格の低迷により、樹脂価格は対前期比、下落傾向
- 年度の前半は、米中貿易摩擦の影響により、中国から北米向けの輸出が減少  
日系・韓国系など生産拠点の中国から東南アジアへのシフトが続く
- 年度の終盤は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、世界的にエンド需要が激減

(U\$/バレル)

原油価格 (WTI) ・ ナフサ価格推移



(※) 19/4Qナフサ価格は1月～3月 (速報値) 数値から計算

## ■ 中期経営計画

「*New Challenge 2020*」について  
(略称 *NC2020*)

## 2021年3月期を最終年度とする4年間の中期経営計画

定量目標	2021年3月期
売上高	7,300億円
営業利益	155億円
経常利益	160億円
親会社株主に帰属する 純利益	120億円
ネットD/Eレシオ	0.4以下
想定為替レート	USD1=110円

## 【重点施策】

### 1 海外事業の更なる拡大と深化

### 2 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

- ・自動車、ライフインフラ・医療、環境・IT分野へ引き続き注力
- ・農業を含む食品分野への新たな展開

### 3 グローバルな経営情報インフラの高度化

- ・グループ全体最適の徹底
- ・海外事業のマネジメントの高度化と標準化

### 4 商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

- ・商社ビジネス拡大を主たる目的としたマイリティ投資の実施
- ・リスク・金額を限定したマジョリティ投資の検討

### 5 保有資産の継続的な見直しと財務体質の強化

### 6 グローバル人財マネジメントの確立

- 中期経営計画 *NC2020*  
3年目（20/3期）の進捗について

- 売上高は、計画に対して未達
- 営業利益は、売上未達により未達だが、営業利益率は確保
- 裨トD/Eレシオは、引き続き改善。財務の健全性が高まる

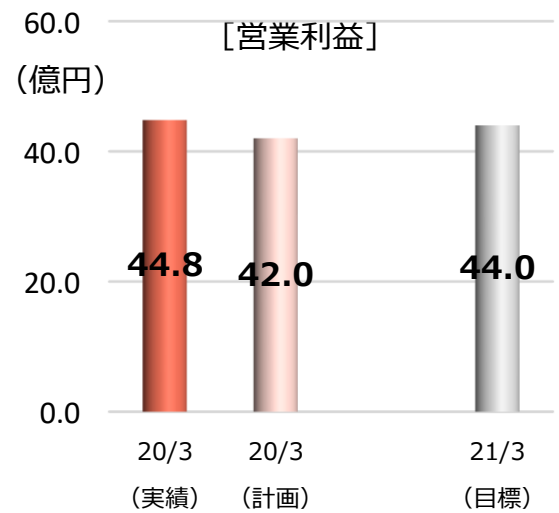
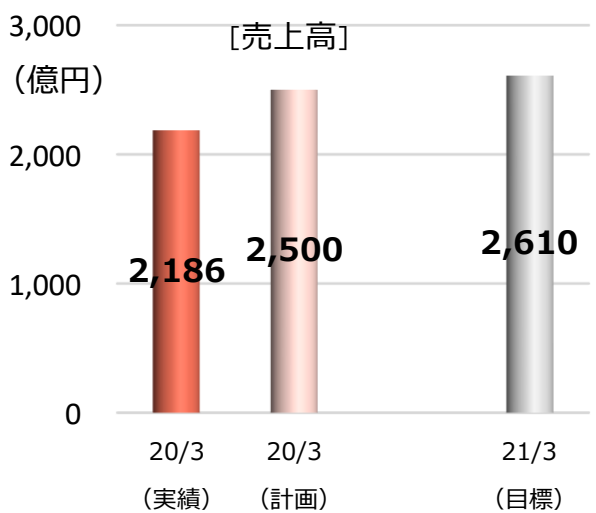
(億円)	2020年3月期 実績 (A)	NC2020 2020年3月期 計画 (B)	差異	達成率 (A)/(B)%	主な差異要因
売上高	6,003	7,000	▲996	85.8%	次頁以降で説明
営業利益	132	145	▲12	91.2%	同上
営業利益率	2.2%	2.1%	+0.1%		
経常利益	142	150	▲7	94.7%	受取配当金増、支払利息減
親会社株主に帰属する 当期純利益	114	110	+4	103.8%	投資有価証券売却益増
裨トD/Eレシオ	0.16	0.4以下			
自己資本比率	45.2%	—	—	—	
為替レート (U\$/¥)	108.70円	110.00円			

■ 営業利益は、情報電子と合成樹脂セグメントで計画値を上回る

(億円)	2020年3月期 実績 (A)	NC2020 2020年3月期 計画 (B)	差異	セグメント	差異内訳 (A) - (B)
売上高	6,003	7,000	▲996	情報電子	▲313
				化学品	▲175
				生活産業	▲220
				合成樹脂	▲286
				その他	▲1
営業利益	132	145	▲12	情報電子	+2
				化学品	▲7
				生活産業	▲13
				合成樹脂	+6
				その他	▲0

■ 売上高は未達だが、営業利益は計画達成、最終年度の目標値のレベル

(億円)	20/3期 実績 (A)	NC2020 20/3期 計画 (B)	差異 (A)-(B)	達成率 (A)/(B)%	主な差異要因
売上高	2,186	2,500	▲313	87.5%	(+) 液晶関連の伸長 (-) 低採算ビジネス見送り (OA関連) (-) 欧州子会社事業再編 (太陽電池)
営業利益	44.8	42.0	+2.8	106.7%	(+) 液晶関連 (原料) の伸長
営業利益率	2.0%	1.7%	+0.3%		



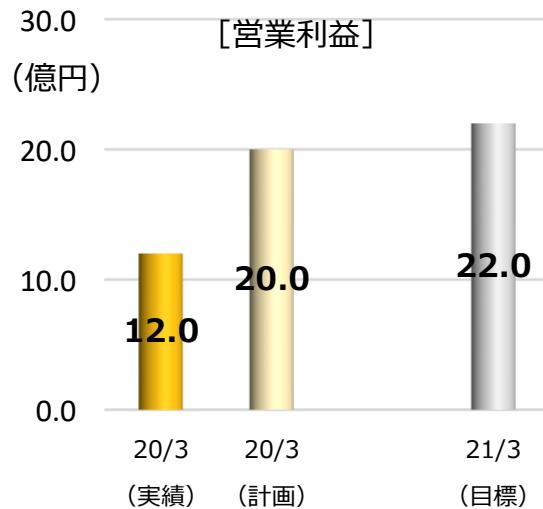
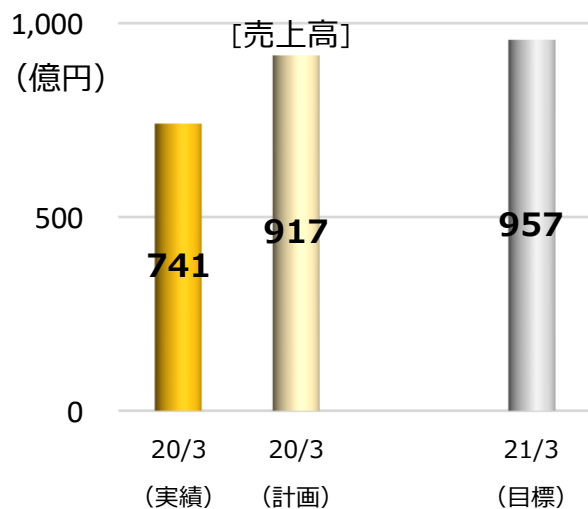
NC2020策定時に想定した商材

収益基盤商材
液晶関連商材、OA関連商材
成長分野商材
二次電池関連商材 (太陽電池、リチウムイオン電池)



### ■ 旧住環境事業の低迷が主因で、売上高・利益共に未達

(億円)	20/3期 実績 (A)	NC2020 20/3期 計画 (B)	差異 (A)-(B)	達成率 (A)/(B)%	主な差異要因
売上高	741	917	▲175	80.9%	(-) 旧住環境事業の低迷 (建材海外) (-) 化学品事業も全般的に伸びず
営業利益	12.0	20.0	▲7.9	60.4%	(-) 売上高の未達 (+) 自動車向け放熱材関連は成長
営業利益率	1.6%	2.2%	▲0.6%		

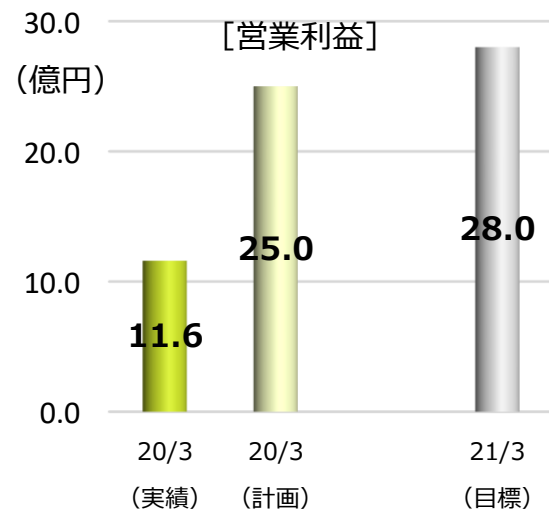
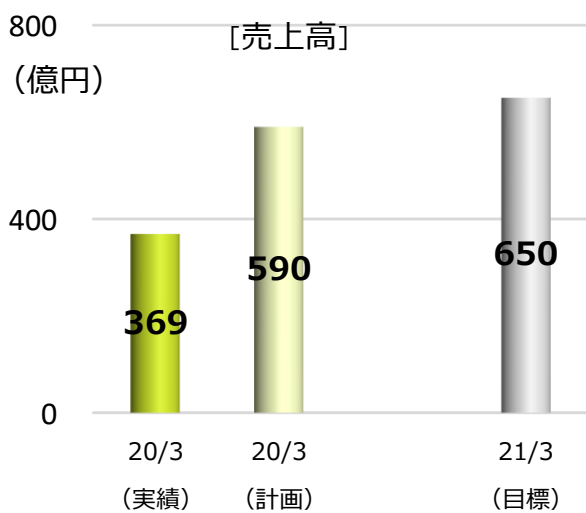


NC2020策定時に想定した商材

収益基盤商材
自動車部品原料、コーティング関連商材、住宅資材
成長分野商材
放熱材など新規商材、住宅資材 (海外向け)、環境資材

■ 食品関連の新規案件の遅れなどにより、売上高・利益共に未達

(億円)	20/3期 実績 (A)	NC2020 20/3期 計画 (B)	差異 (A)-(B)	達成率 (A)/(B)%	主な差異要因
売上高	369	590	▲220	62.6%	(-) 中国の環境規制による取引減 (-) 防・殺虫剤原料の販売不振 (-) 食品関連の新規案件（農業や食品加工）の遅れ
営業利益	11.6	25.0	▲13.3	46.6%	(-) 売上高の未達
営業利益率	3.2%	4.2%	▲1.0%		

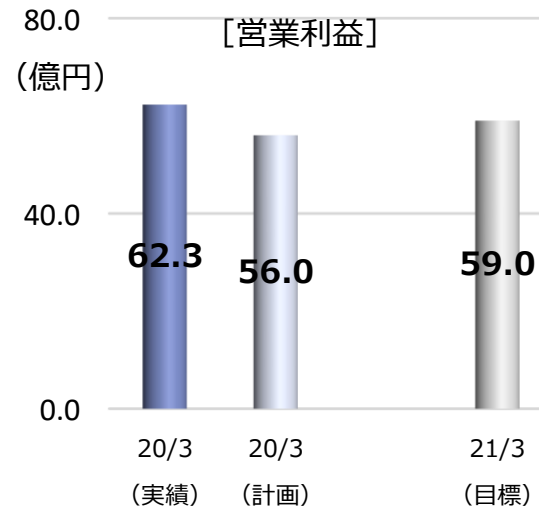
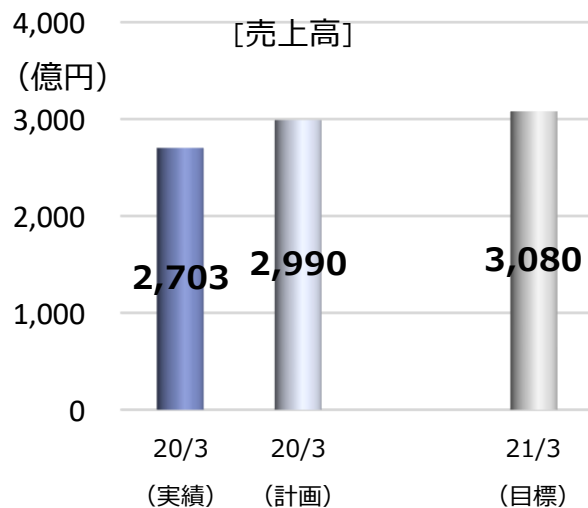


NC2020策定時に想定した商材

<b>収益基盤商材</b>
医薬原料、ホームプロダクツ 関連原料、水産品（回転寿司 向け）
<b>成長分野商材</b>
先端医療関連装置・材料（再 生医療）、農産品（ブルーベ リー他）

### ■ 売上高は未達だが、営業利益は計画達成、最終年度の計画値を上回る

(億円)	20/3期 実績 (A)	NC2020 20/3期 計画 (B)	差異 (A)-(B)	達成率 (A)/(B)%	主な差異要因
売上高	2,703	2,990	▲286	90.4%	(-) 樹脂価格の下落 (-) 新型コロナウイルス感染拡大の影響
営業利益	62.3	56.0	+6.3	111.3%	(+) 自動車向け高機能樹脂の販売増 (+) 全体的な利益率向上 (-) 売上高の未達
営業利益率	2.3%	1.9%	+0.4%		



NC2020策定時に想定した商材

収益基盤商材
OA、家電向け樹脂、製造加工を含むフィルム・シート（食品向け）
成長分野商材
自動車向け高機能樹脂、スポーツ関連商材（グリップテープ）

## ■ 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

重点分野	コメント	評価
自動車	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、グローバルユーザー向けに高機能樹脂の拡販が進む EV向けの放熱材原料の販売が伸長 加飾フィルム関連の販売は堅調	◎
ライフサイエンス・医療	医薬品原料は、中国の環境規制や新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、想定を下回る 先端医療分野は培地・装置などの販売が遅れる ホームプロダクツは、防・殺虫剤向け原料販売が苦戦	×
環境・エネルギー	太陽電池は、欧州での取引中止により計画を見直し 国内のシステム案件や材料販売は伸長 リチウムイオン電池は、遅れ気味だが、中国・韓国メーカーへの材料販売が進む	△
農業を含む食品 (農業分野)	北海道のブルーベリーやニンニクの栽培は、時間がかかっているものの、生育は順調 輸入牧草など飼料の販売は順調	△

## 商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

(億円)

	18/3期 実績	19/3期 実績	20/3期 実績	NC2020 18/3期～累計
成長投資	38.6	23.1	18.5	80.3
定常投資	15.9	20.3	20.1	56.3
合計	54.5	43.4	38.6	136.6

## ■ 20/3期 主な成長投資

- [情電] 会社設立貸付 5.0 (マスクブランクス関連)
- [合成] 工場移転貸付 5.4 (特殊紙関連)
- 設備等 1.7 (インフレ関連)
- [生活] 株式取得 1.5 (医薬関連)
- 出資 1.0 (再生医療関連)

## ■ 株主への利益還元

## 利益還元の方針

総還元性向 30～35%目安

1株当たり配当金 :

■ 2020年3月期実績

年間配当金 53円 (中間20円 期末33円)

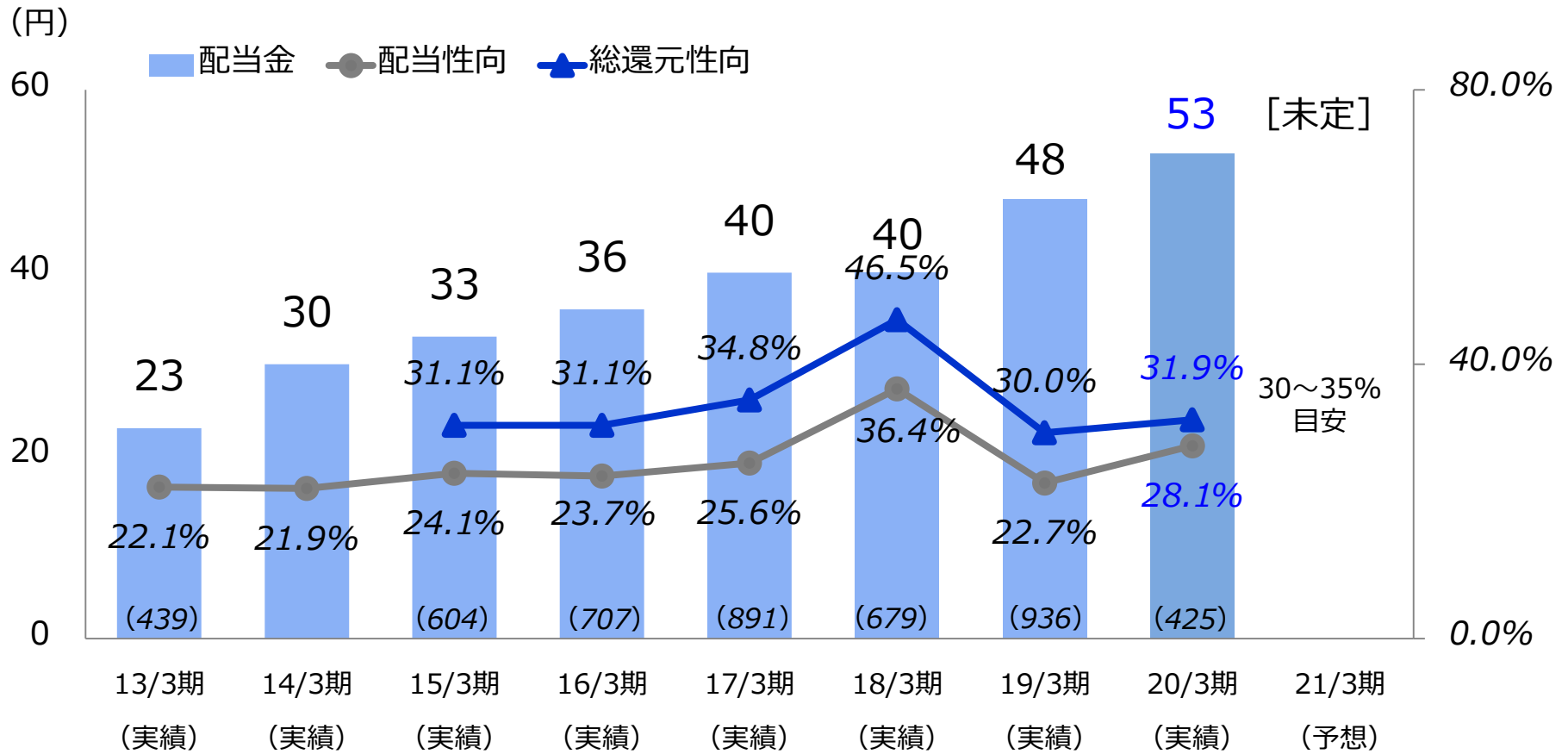
自己株式取得額 425百万円 (300,000株)

総還元性向 31.9% (配当性向 28.1%)

■ 2021年3月期 (予想)

年間配当金 未定

## 1株当たりの年間配当金と株主還元指標の推移



※ 棒グラフ下部のカッコ ( ) 内は、期中に実施した自己株式取得額 (百万円)



- 中期経営計画 *NC2020*  
最終年度（21/3期）の見通し

## ■ NC2020 最終年度（2021年3月期）の見通しについて

世界的な新型コロナウイルス感染拡大による不確定要素が多いことから、現時点においては、その影響を合理的に見積もることが困難であるため、2021年3月期の業績予想と配当予想の開示を見送ることといたしました。今後の動向を見極めながら、連結業績予想の合理的な見積もりが可能となった段階で、速やかに開示いたします。

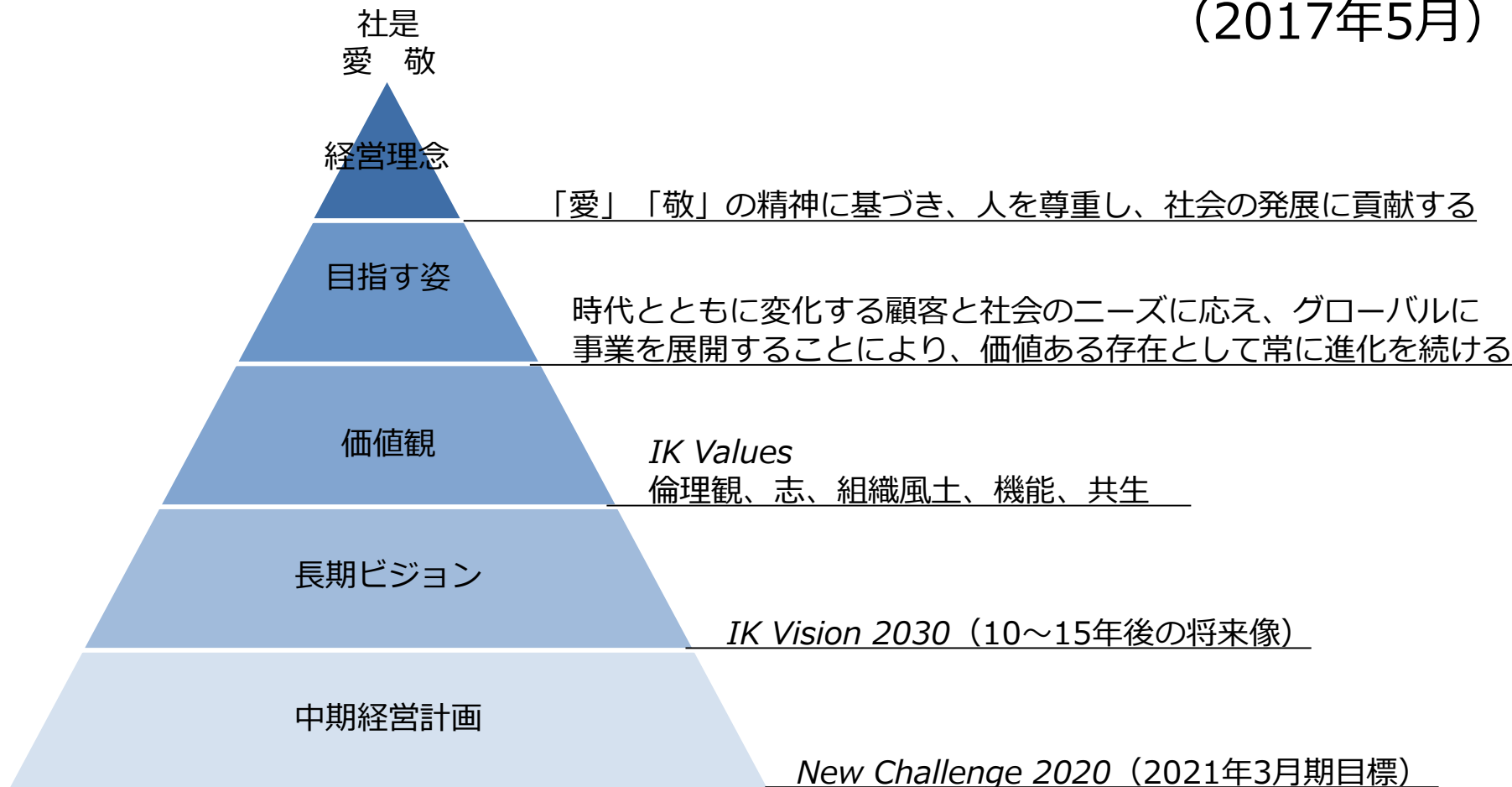
## ■ 新型コロナウイルス感染拡大を踏まえて想定される事業への影響 (2020年6月4日時点での想定)

セグメント	分野	21/3期の主な影響
情報電子	①液晶関連	① (-) TV、スマートフォンのエンド需要の大幅減少に伴う、各パネルメーカーの稼働率低下の可能性
	②OA関連	② (+) 在宅勤務に付随するコンシューマーIJプリンターの特需。 (-) 在宅勤務が進む中、オフィスで使用する複写機への影響
化学品	①自動車関連	① (-) 中国、東南アジアでの自動車生産台数の減少
	②情報用紙・インキ関連	② (影響なし) パッケージ関連の堅調な動き
	③建材関連	③ (-) 建材関連は緊急事態宣言後の住宅展示場の閉鎖等の影響
生活産業	①ライフサイエンス関連	① (-) 予防文化浸透でインフルエンザ薬原料の販売減少 (-) 外出自粛の影響による日焼け止めや虫よけスプレーの販売減少
	②食品関連	② (-) 休校による学校給食向け切り身魚の販売が減少 (-) 海外渡航禁止による水産品加工案件立上げ遅れ (-) 外出自粛の影響で海外の外食向け日本食材の輸出が減少
合成樹脂	①汎用樹脂	① (-) 石油価格急落に伴うナフサ価格下落見通しの影響
	②機能樹脂 (OA関連)	② (-) 海外での生産/販売の落ち込みによる、日本からの輸出の減少
	③高機能樹脂 (自動車関連)	③ (-) 世界的な自動車生産の減少 新車系の量産開始時期、現行車系の生産挽回時期が影響

## ■ 参考資料

1.	中期経営計画「NC2020」の位置づけ	… P 30
2.	長期ビジョン「IK Vision 2030」	… P 31
3.	NC2020 事業環境・事業戦略	… P 32
4.	NC2020 セグメント別売上高・営業利益推移	… P 34
5.	売上高・営業利益推移	… P 36
6.	海外の売上高・営業利益推移	… P 37
7.	成長が見込める市場・未開拓分野への注力	… P 38
8.	海外事業の更なる拡大と深化	… P 42
9.	樹脂コンパウンドの年間生産能力	… P 44
10.	ガバナンスの強化	… P 45
11.	グローバル人財マネジメントの確立	… P 46
12.	1株当たりの当期純利益	… P 47
13.	欧州子会社関連のご説明	… P 48
14.	会社概要	… P 51

## ◆中期経営計画策定にあたり、当社が目指す長期ビジョンを策定 (2017年5月)



◆2030年頃を念頭に、将来像を想定

機能 : 商社機能を基本としつつも、製造・物流・ファイナ等の複合的な機能の一層の高度化を図る

規模感 : 連結売上高 1兆円以上を早期に実現

海外比率 : 70%以上

ポートフォリオ : 情報電子・合成樹脂以外の事業の比率を1/3以上に

[ 2017年5月策定 ]

事業	事業環境
情報電子	<ul style="list-style-type: none"> <li>液晶関連は中期的に微増、パネル生産は中国へのシフトが続く</li> <li>複写機・プリンターは成熟産業だが、産業用に成長の余地あり</li> <li>太陽光発電は、日本では期待薄だが、海外で成長が続く</li> </ul>
化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の既存マーケットは変化が少なく、当社が扱える商材の市場も限定的</li> <li>外資系化学メーカーが、日本市場において営業を商社に任せる動きあり</li> </ul>
生活産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬は、新薬市場と再生医療が緩やかに成長</li> <li>ホームプロダクツは、国内市場が飽和状況、新興国市場は拡大</li> <li>食品は、先進国では健康、安全志向へ、新興国では食の消費増進む</li> </ul>
合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客・サプライヤー共にグローバル化の動きが加速</li> <li>グローバル対応が可能な商社への集約化選別が進む</li> </ul>
住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設住宅着工件数は減少が続く見通し</li> <li>リフォーム市場は拡大</li> <li>大手ハウスメーカー、住宅設備機器メーカーの海外進出加速</li> </ul>

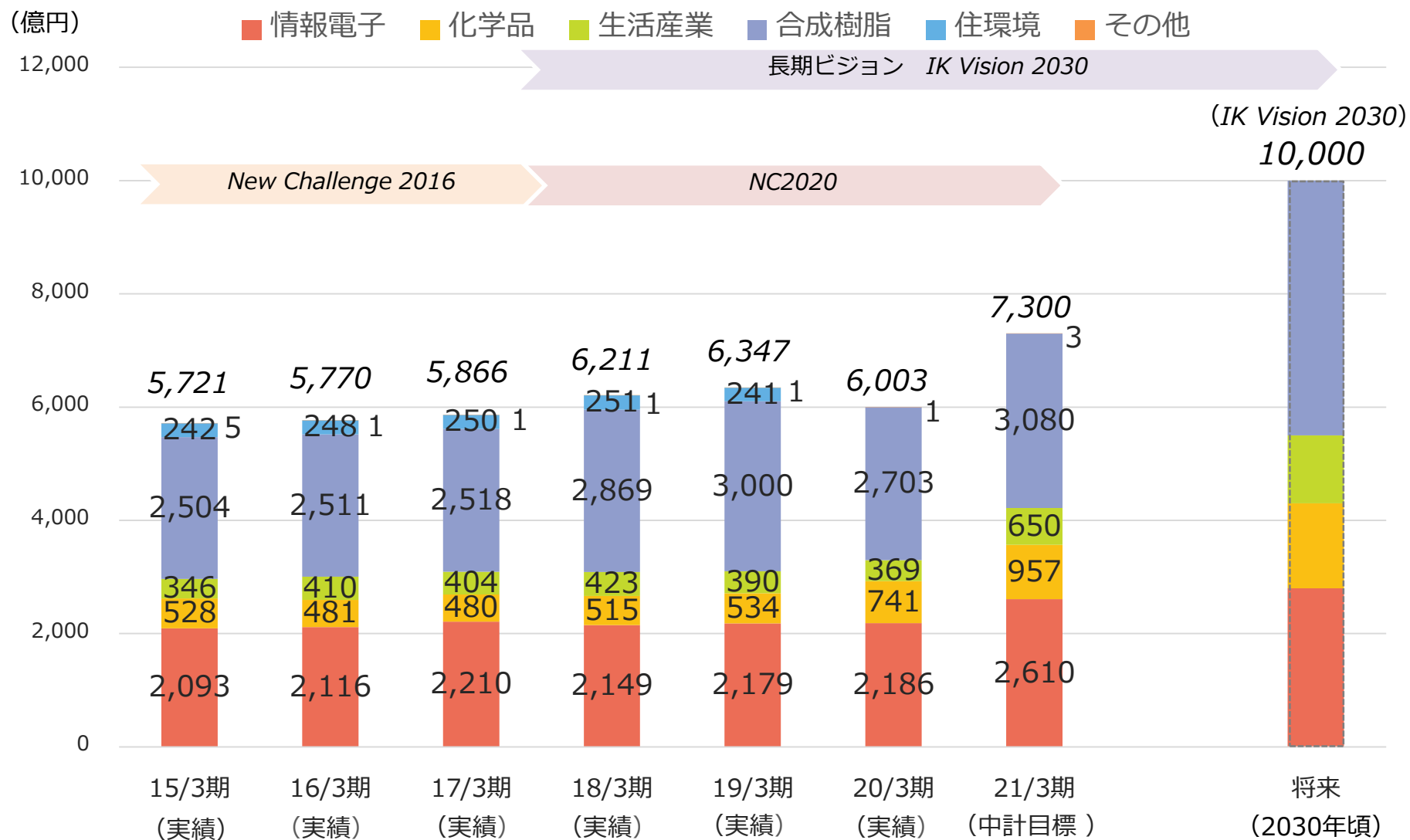
[2017年5月策定]



事業	事業環境
情報電子	<ul style="list-style-type: none"> <li>液晶ビジネスは、中期計画の期間中、引き続き主力事業として収益の維持を図る</li> <li>長期的に、現主力事業の成長鈍化も想定して、新規ビジネスの拡大に注力</li> </ul>
化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車部品業界の更なる深堀り</li> <li>自動車業界をメインとしたコーティングビジネスの拡大</li> <li>外資系化学メーカーとの取り組みを強化</li> </ul>
生活産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>新薬・原料ビジネスは、有望テーマを拡充。先端医療分野に最注力</li> <li>ホームプロダクツ・食品は、海外を含めた市場拡大による売上拡大を図る</li> <li>食品では、生産者ポジションと加工業への進出を進める</li> </ul>
合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンパウンド事業を武器に樹脂の販売を拡大</li> <li>自動車分野と特に北米市場に注力</li> </ul>
住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外市場への拡販</li> <li>非住宅分野へ注力</li> </ul>

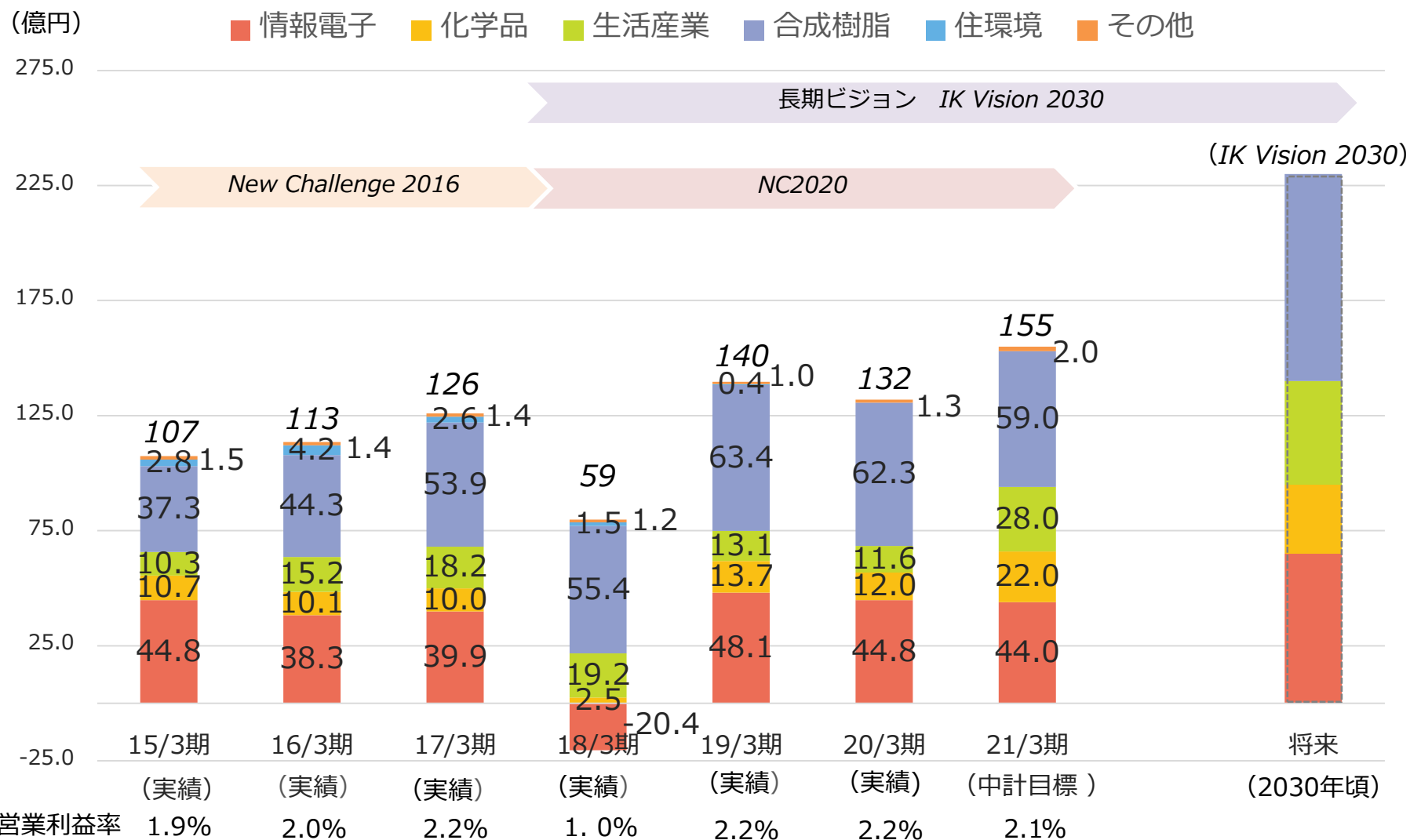
[2017年5月策定]

# 【参考】NC2020 セグメント別 売上高推移



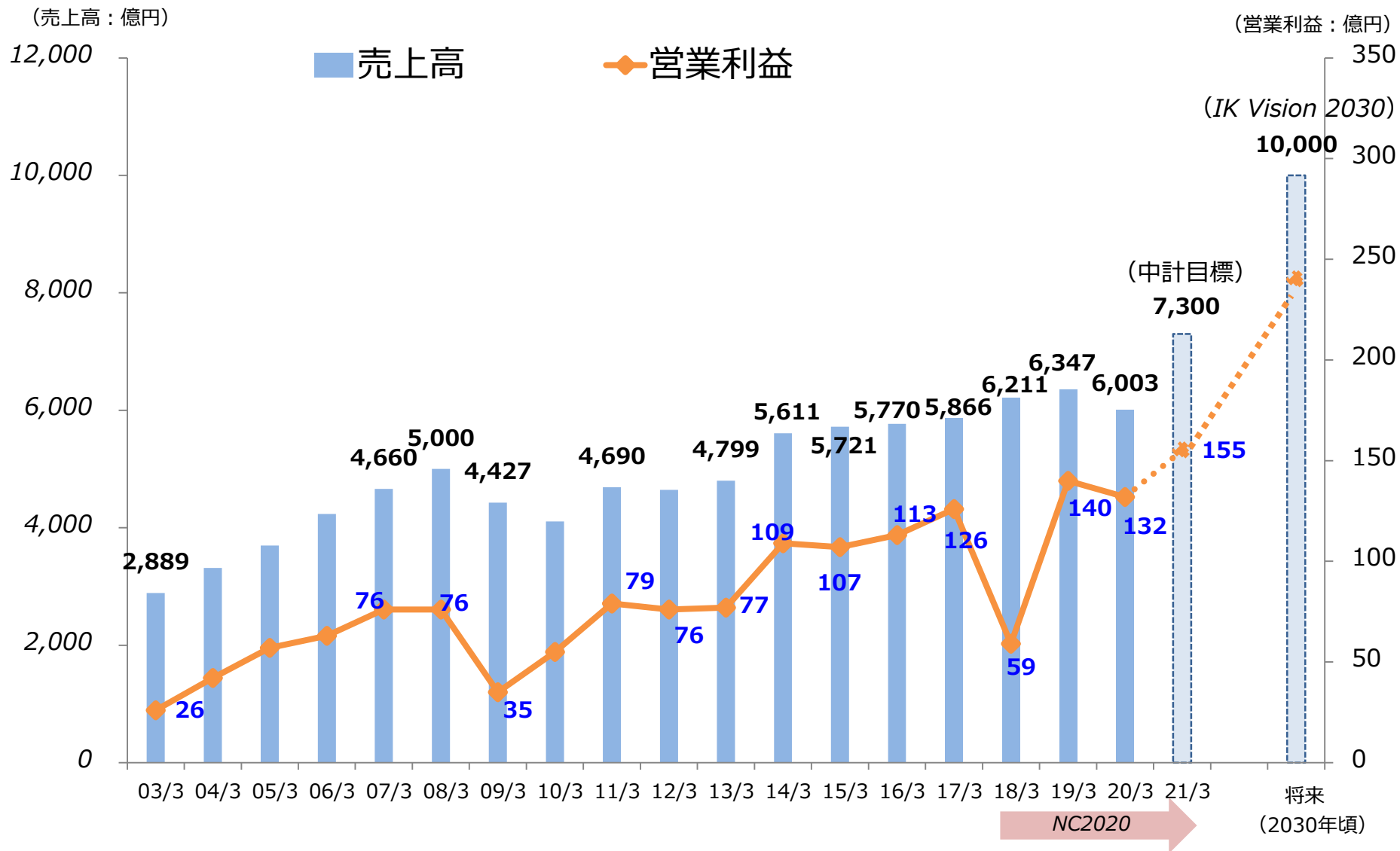
(※) 20/3期より、住環境事業は化学品事業に統合しました。

# 【参考】NC2020 セグメント別 営業利益推移



(※) 20/3期より、住環境事業は化学品事業に統合しました。

# 【参考】売上高・営業利益推移

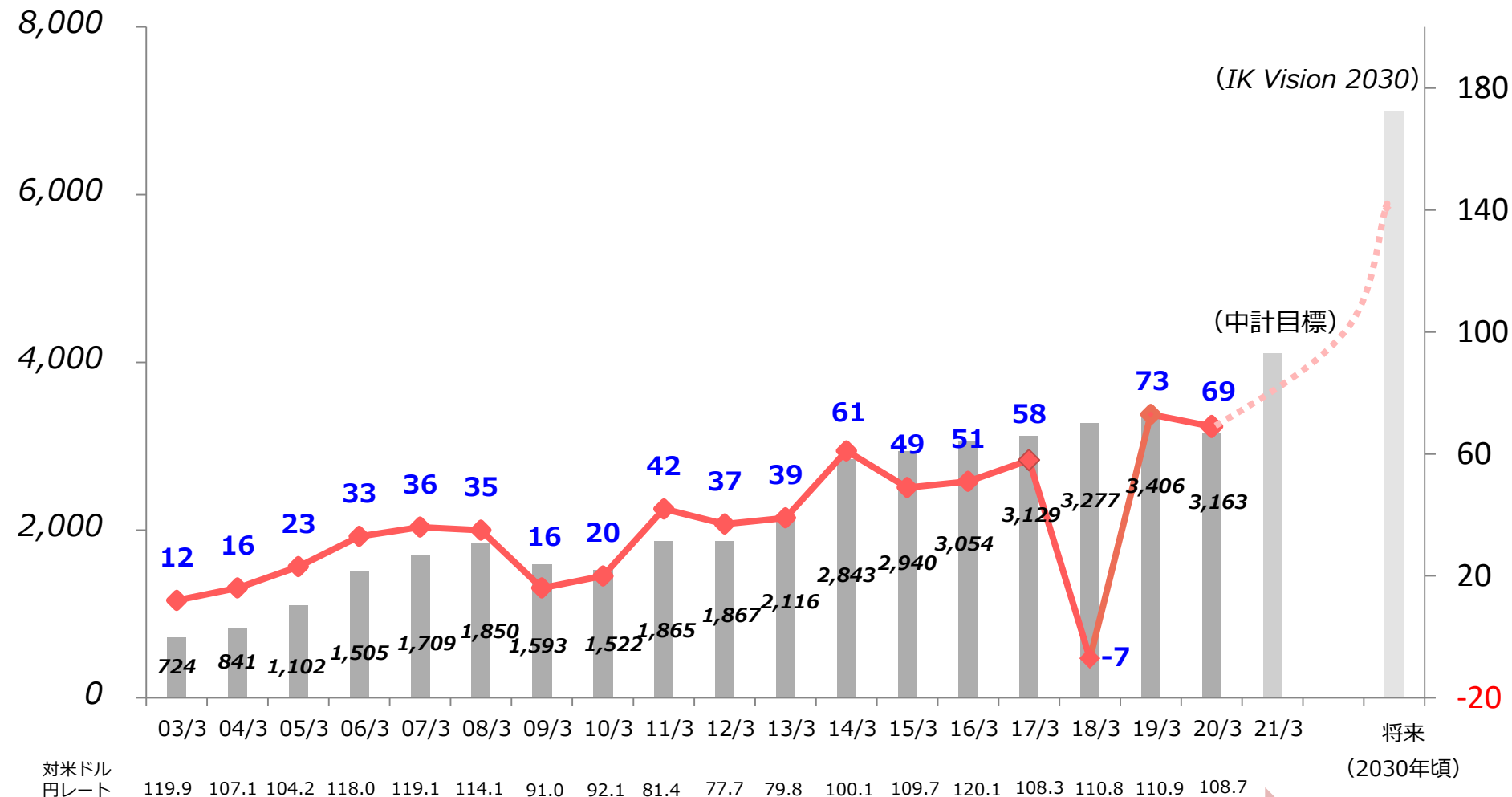


# 【参考】海外の売上高・営業利益推移

(売上高：億円)

■売上高 ◆営業利益

(営業利益：億円)



対米ドル  
円レート

NC2020

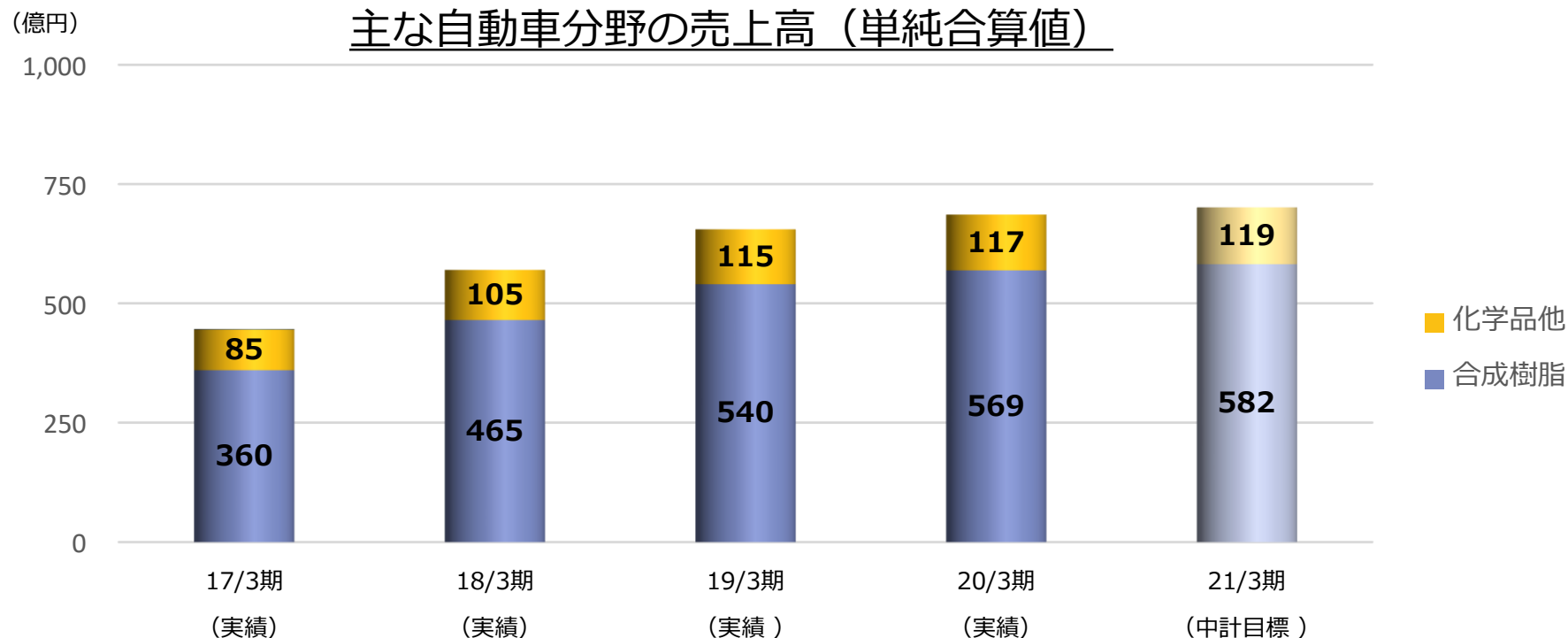
## 自動車分野への主な取り組み

全体としては堅調だが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で年度終盤に減速

[合成] グローバルユーザーへの樹脂の拡販進む。海外から国内取引へ

[化学] 部品・塗料原料の拡販、放熱材原料・製品の販売に注力

[情電] 加飾フィルム関連の販売



(※) 21/3期の数値は、計画策定時の目標値です。  
 (※) 過年度の実績値は、一部微調整を行っています。

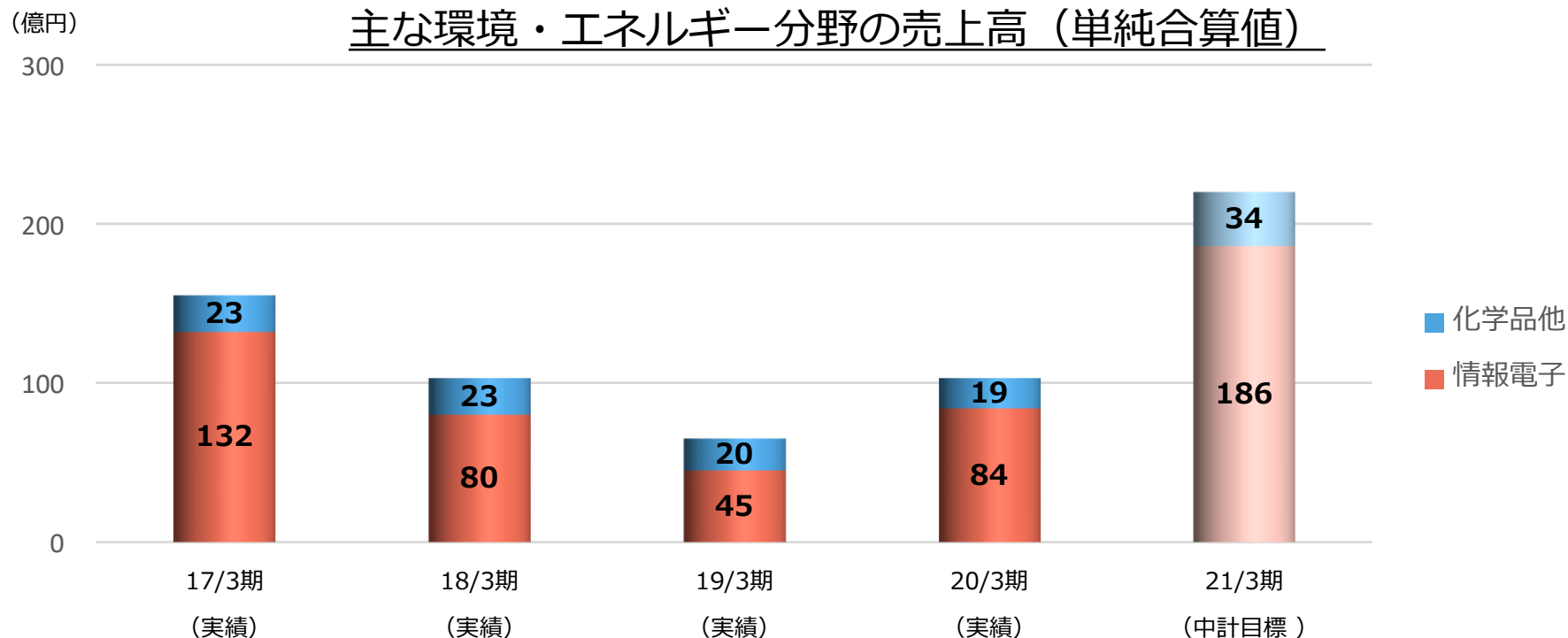
## 環境・エネルギー分野への主な取り組み

[情電] 太陽電池は欧州子会社での取引中止により大幅減となったが、国内のシステム案件や材料販売伸長により復調傾向

リチウムイオン電池は中国/韓国の電池メーカーへの材料販売が伸長

[化学] 木質チップとパーティクルボードの販売に注力

主な環境・エネルギー分野の売上高（単純合算値）



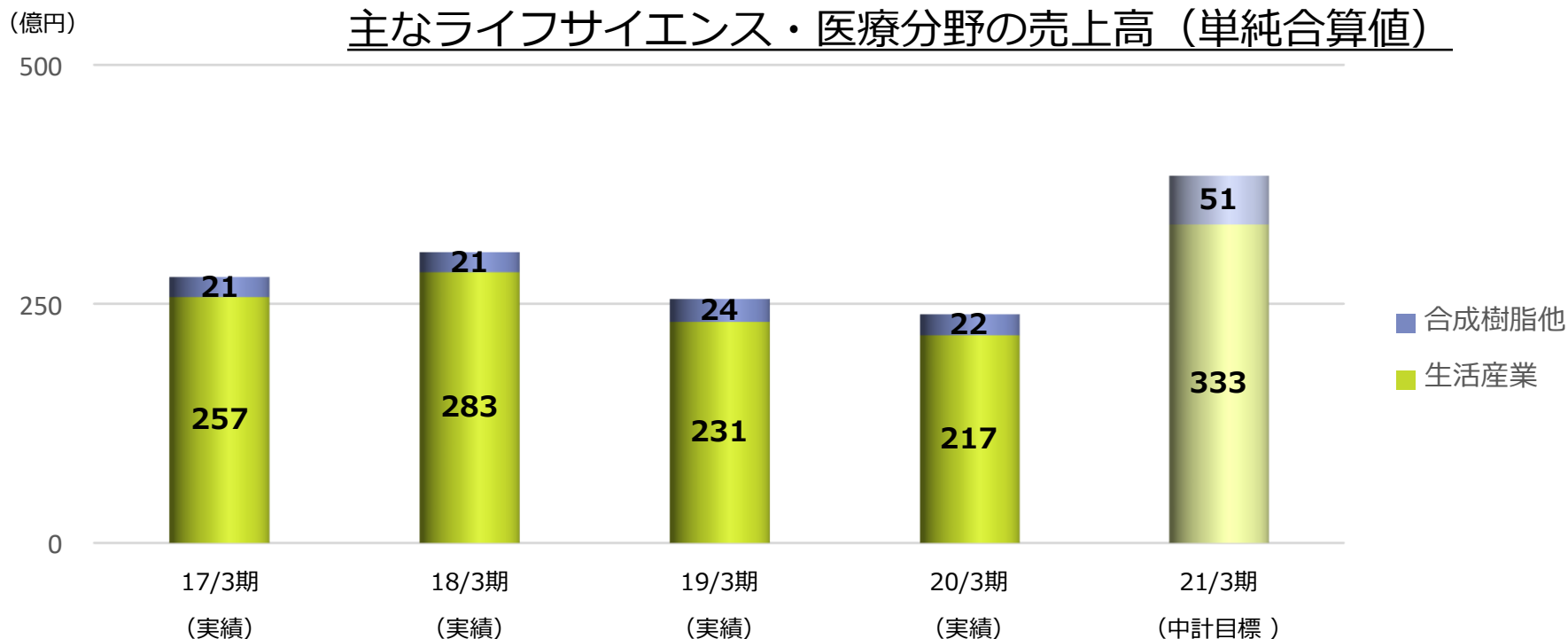
(※) 21/3期の数値は、計画策定時の目標値です。  
 (※) 過年度の実績値は、一部微調整を行っています。

## ライフサイエンス・医療分野への主な取り組み

【生活】医薬品原料、化粧品原料等に注力、中国で環境規制の影響大  
 先端医療分野は再生医療に注力するも販売遅れる  
 ホームプロダクツは防・殺虫剤関連原料の販売減少

【合成】医療機器メーカー（シリンジ用など）への樹脂の販売は単価下落が影響

主なライフサイエンス・医療分野の売上高（単純合算値）

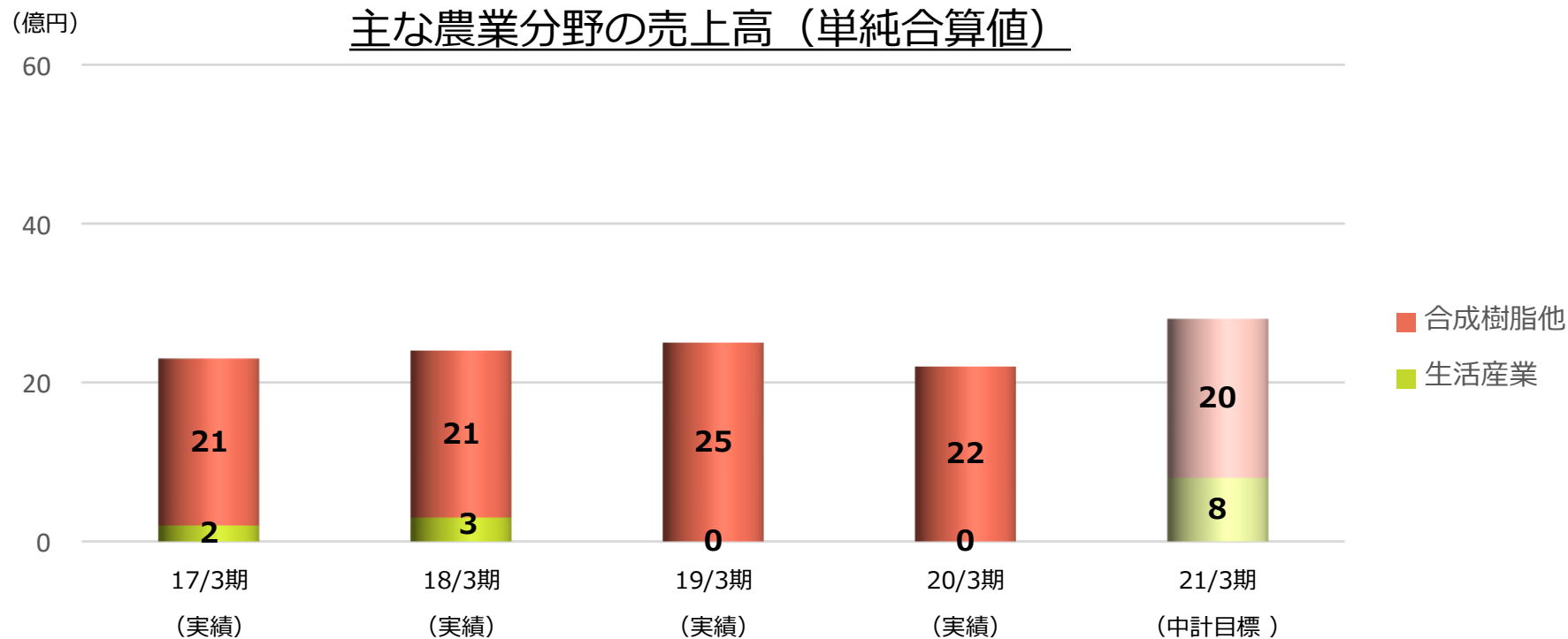


(※) 21/3期の数値は、計画策定時の目標値です。  
 (※) 過年度の実績値は、一部微調整を行っています。



## 農業分野への主な取り組み

- [生活] ブルーベリー、ニンニクなど栽培事業は生育順調だが、遅れ気味  
加工品の販売等、新規案件も遅れる
- [合成] 農業用フィルム（防曇など）の販売に注力
- [情電] 飼料（輸入牧草）の販売が伸長



(※) 21/3期の数値は、計画策定時の目標値です。  
 (※) 過年度の実績値は、一部微調整を行っています。

## 【参考】海外事業の更なる拡大と深化

### コンパウンド製造拠点の進捗状況 [メキシコ・自動車向け 🚗]

2020年3月期は、日系メーカーの新型モデルの生産休止等の影響により販売数量は計画を下回る

2018年3月期	販売実績	6,100トン
2019年3月期	販売実績	6,700トン
2020年3月期	販売実績	9,000トン
2021年3月期	販売見通し	未定

#### ■ 新型コロナウイルス感染拡大の影響（2020年6月4日現在）

2020年3月期 ほぼ影響なし

2021年3月期 メキシコ政府の指導で、4,5月は操業停止



会社名 : IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.  
生産能力 : 15,000トン/年  
所在地 : メキシコ中央部グアナフアト州シラオ  
2013年11月稼働、2014年9月より量産開始

## 【参考】海外事業の更なる拡大と深化

### コンパウンド製造拠点の進捗状況 [フィリピン・OA向け ]

2020年3月期は、日系OAの主要顧客の生産低調により、  
販売数量は計画を下回る  
二輪向けなど新規ビジネスがスタート

2018年3月期	販売実績	7,200トン
2019年3月期	販売実績	10,200トン
2020年3月期	販売実績	9,300トン
2021年3月期	販売見通し	未定

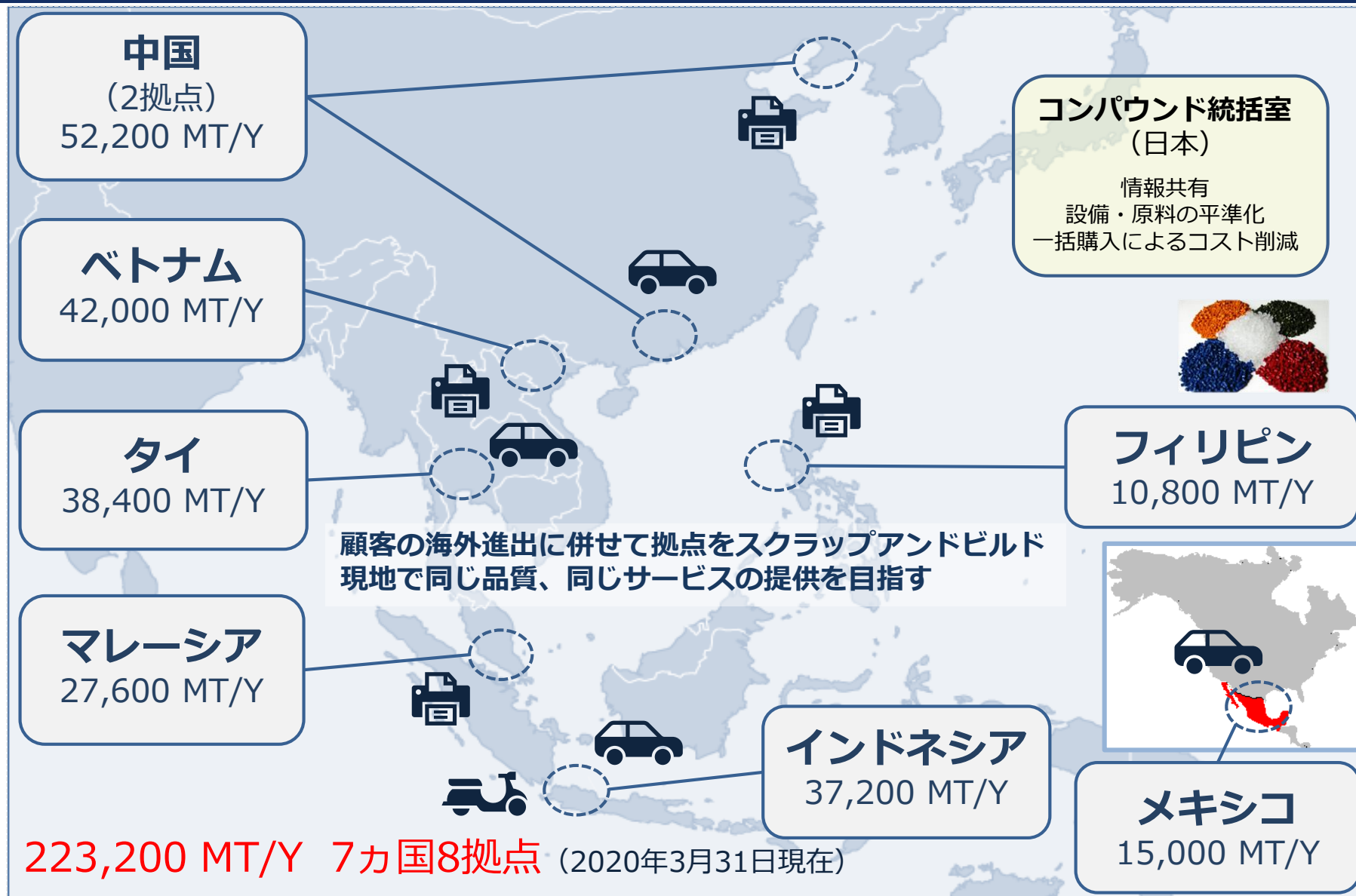
#### ■ 新型コロナウイルス感染拡大の影響（2020年6月4日現在）

2020年3月期	3月より操業停止に近い状況
2021年3月期	影響大きく、生産回復期未定



会社名	: IK PLASTIC COMPOUND PHILS. INC.
生産能力	: 10,800トン/年
所在地	: フィリピン ラグナ州
	: 2014年7月商業生産開始

# 【参考】樹脂コンパウンドの年間生産能力



## 取締役会評価について

取締役会の実効性と透明性を高め、企業価値を向上させることを目的

### **2019年3月期**

全取締役・監査役にアンケート形式による自己評価を実施  
⇒ 2019年4月 評価の概要と今後の対応を開示

### **2020年3月期**

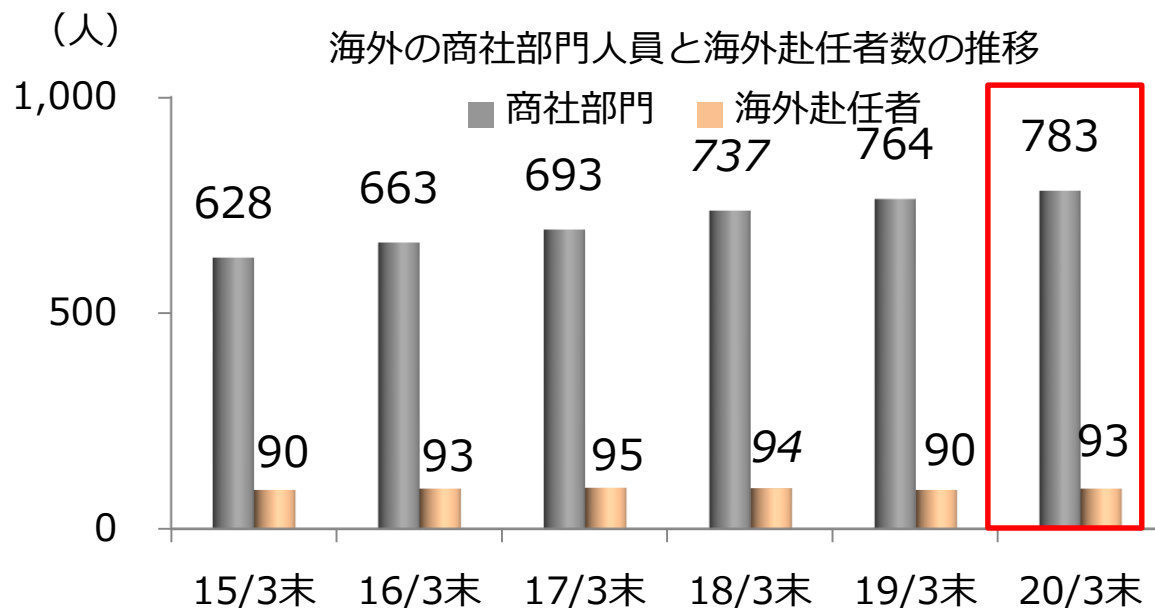
全取締役・監査役にアンケート形式による自己評価を実施  
⇒ 2020年4月 評価の概要と今後の対応を開示

### **2021年3月期**

第三者評価を実施予定

## 人員の充実と共に、質的な面での強化育成を加速

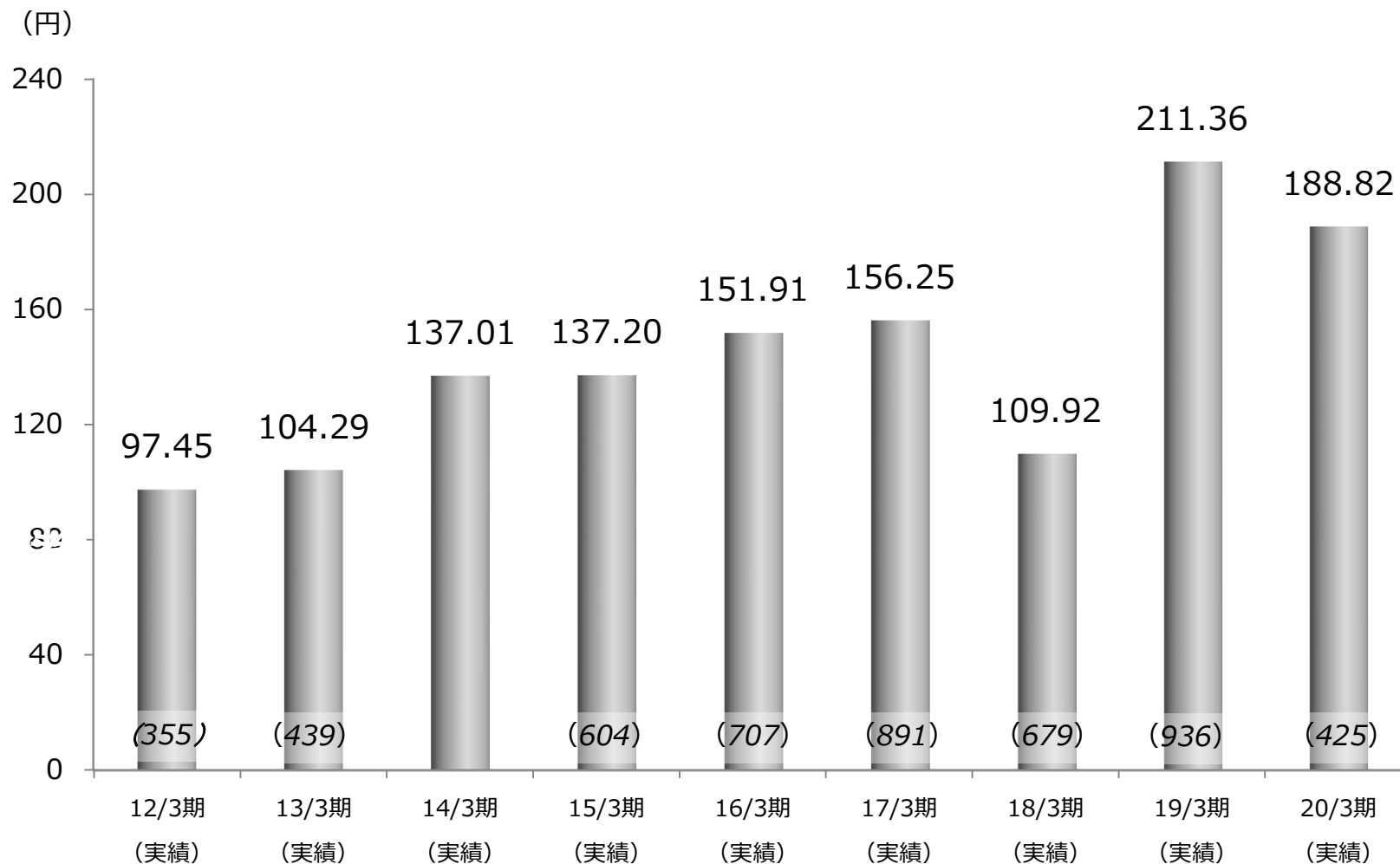
- ✓ 14カ国36拠点において、「IK Values」浸透のためワークショップを実施  
700名超のナショナルスタッフが参加
- ✓ Global Staff Meetingの継続的な開催  
2020年5月の開催予定は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止






【稲畑メキシコの社員と本社役員】

(注) 各海外赴任者数は、翌月の1日現在の人数

# 【参考】1株当たりの当期純利益



(注) 棒グラフ下部のカッコ ( ) 内は、期中に実施した自己株式取得額 (百万円)

- 欧州子会社(IKEG)において、太陽電池モジュールの在庫の販売予定先（X社）による無断売却が発覚
- 
- 事実関係の確認と決算数値確定のため、2018年3月期第1四半期の決算報告を延期（決算発表日：2017年8月14日から9月13日へ）
- 
- 第三者を含む社内調査委員会を設置。同委員会において、事実関係の徹底解明と原因分析を行い、再発防止策の提言を含む調査報告書を当社に提出
- 
- 調査報告書を受けて、再発防止推進部会を設けて再発防止策を策定
  - 取締役会にて再発防止策を決議（東証適時開示：2017年9月28日）

グループ内で再発防止策を周知・徹底



## ◆ 今回の問題を招いた背景

- 欧州リージョンが他リージョンと比較して業績が伸び悩む中、ビジネスの拡大を急いだこと
- 欧州子会社は、欧州の商社拠点として設立（2013年12月）してからまだ数年で社員教育や組織体制が十分でなかったこと
- 当社の海外ビジネスが急拡大する中で、全社的な海外グループ会社の管理体制の整備が一部追いついていなかったこと

再発防止策	
1.仕入・在庫管理に関する対策	1-1 実地棚卸、帳簿棚卸の強化
	1-2 大量仕入に関する決済基準の設定
2.業務管理に関する対策	2-1 海外子会社の業務ルールの周知・徹底
	2-2 仕入・在庫管理、与信管理、業務管理に関する教育研修の徹底
3.営業部門と管理部門の意思疎通を円滑化する対策	
4.グループ会社管理機能を強化するための対策	4-1 新たな情報システムの構築
	4-2 当社管理部門の牽制機能の強化

## ◆ 2018年3月期 第2四半期累計期間の連結決算に与えた影響

- 太陽電池モジュール在庫の差異不明分による売上原価増 12百万円
- 太陽電池関連の取引先（X社）に対する債権及び関連する債権に対する貸倒引当金を計上 約31億円
- 関連する投資有価証券の評価損を特別損失で計上 2.5億円

※2018年3月期第4四半期に追加引当を実施、欧州子会社関連での貸倒引当金の総額は66.5億円。  
(情報電子事業 59.0億円、化学品事業 7.5億円)

## 【参考】 会社概要

会社名	稲畑産業株式会社
創業	1890年10月1日
設立	1918年6月10日
資本金	93億6千4百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 稲畑 勝太郎
本社	大阪本社/大阪市中央区南船場一丁目 15番14号 東京本社/東京都中央区日本橋本町二 丁目8番2号
従業員数	648名〔連結4,282名〕
発行可能 株式総数	200,000,000株
発行済株 式の総数	63,499,227株

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
上場市場	東証一部
証券コード	8098
単元株式数	100株
株主数	10,648名
大株主の状況 (持株比率上位3 株主と持株比率)	住友化学株式会社 22.9% 日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口) 4.4% 日本トラスティ・サービス信 託銀行株式会社(信託口) 4.2 %

(注) 当社保有の自己株式数3,010,320株(ただし「株主給付信託(BBT)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式100,000株を除く)については、上記表の持株比率の計算から除外しています。

(2020年3月31日現在)

## □ I R に関するお問い合わせ先

稲畑産業株式会社 財務経営管理室 I R 企画部  
TEL 050-3684-4007 FAX 03-3639-6410  
E-mail inabata-ir@inabata.com

### ◆将来の見通しに関する注意事項

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。従いましてこれらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではないことをご理解下さい。

### ◆数値の表示に関して

資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。